

3.11運行部デモから3.27三里塚へ

日刊 勤労千葉

1988.3.7
No.2771

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

二月二十六日、千葉市弁天町会館において、全支部より七〇名が結集して青年部団結集会の成功をかちとった。「六三・三ダイ改」粉碎！「四・一体制」粉碎！ 鉄道労連打倒にむけ、三・一一運行部デモから三・二七 三里塚へ全力で進撃しよう！

三〇四月の方針を貫徹しよう

十八時すぎ、集会は佐藤副部長の司会のもと、始まった。

最初に、本部を代表して布施書記長は、「今や住田は『国労はつぶした、次は革マルだ』と言いだした。松崎は、大東亜共栄圏構想をうちだし、ベースアップもボーナスもいらぬ、仕事があつてでも働く、だから不必要な国労・勤労千葉を排除しろ」とやっきになっている。この鉄道労連を打倒して動労総連合を強化して『四・一体制』を粉碎しよう。三月八日の定期委員会、二七日の三里塚に最大限の決起をかちとり、四・九国鉄労働者集会の成功にむけ進撃しよう」と訴えた。

新小岩・千葉転が闘争報告

次に、この間の支部の闘争報告を新小岩と千葉転が行った。

新小岩支部斉藤青年部長は、「二月十九日、東京東部第三報上映会に百十名が参加してくれ大成功した。この取り組みは青年部の成果だ。百十ヶ所の労組オルグ、四千枚のピラマキと、精力的に地域をまわって訴えた。その中で全労連粉砕、鉄道労連打倒の声をうけた」と報告した。

千葉転垂書記長は「二月二二日、直営店舗へ強制配転がなされた。事故を理由にした差別的入選であり許せない。この間、支部は十七日以降、職場集会で意志統一し、二十二日から明日まで抗議行動を展開中である。強制配転、出向攻撃を粉碎し、解雇者・清算事業団の仲間を奪還するまで闘う」と決意を明らかにした。

3・11運行部デモから3・27三里塚へ！

続いて、杉本青年部長が、「『六三・三ダイ改』『四・一支社化』と、この過程で大量の要員削減が狙われ、出向問題が焦点化してくる。松崎はいまだに鉄産労すら解体できず非常にあせっている。そうした分割・民営化体制の破産をとりもどすために、『六三・三』で殺人的労働強化と労働組合無視の大攻撃がかけられている。三・一一運行部デモを叩きつけ、三・二七三里塚へ！ 反撃戦にうつてよう」と基調方針を提起した。

佐倉・前田新青年部長を始め 各支部と本部常任が決意表明

「カーテンをめぐって個人的に呼ばれて恫喝が行われているが、青年部は、運転保安確立のため、今後も闘う」（津田沼・高田青年部長）

「東日本の殺人的労働条件は、同じ組合員として怒りを感じる」（新小岩・国分前青年部長）

「ダイ改で十三増だがうち東鉄労が六人帰ってくる。三里塚に全力で決起する」（銚子・渡辺青年部長）

「青年部ががんばって闘う方針を貫徹している。支部をけん引する」（館山・山田青年部長）

「ダブル泊どころか、夜中一時におわって二時に次の仕事をつけるという、とんでもない事態がおこっている。抗議行動を貫徹する」（千葉転・高橋青年部長代行）

「誘導全廃で、ダイ改以降、仕業にあたりがでるのではないか。合理化粉碎にむけ闘う」（幕張・伊藤青年部長）

「十年も自動車にたずさわっていない人に一週間の教育で仕業をやらせるとは安全無視もはなはだしい。三里塚五割動員がんばる」（木更津・荒井副青年部長）

「今度新しく青年部長になり、新体制はがんばるのでよろしく」（佐倉・前田青年部長）

最後に、本部常任の決意表明、団結ガンバローを三唱し、三〇四月の闘いにむけた団結集会は圧倒的に成功した。



青年部70名結集！

春季闘争へ決意固める！